

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070501057		
法人名	宗教法人天理教飯田市分教会		
事業所名	グループホームいこいの里		
所在地	長野県飯田市羽場権現1611-2		
自己評価作成日	平成22年1月11日	評価結果市町村受理日	平成22年3月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070501057&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070501057&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成22年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた地域社会の中で、自立とふれあいを大切に高齢者の尊重を守り明るく健やかに暮らせるよう生活全体に亘る支援をしています。入居者、職員共に「陽気ぐらし」を実現出来る、感謝、慎み、たすけあいの心を持った生活を心がけています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同経営の高齢者ホームと同じ敷地内にある6人のグループホームであり、静かな環境に恵まれている。入居者、職員と共に「陽気ぐらし」を実現するよう努めている。家族と共に行なっている、ボランティアによる絵手紙教室など、家族的な雰囲気の中、利用者と共に楽しい時間を過ごすなど、管理者・職員の前向きな姿勢を伺う事ができる。管理者・職員の提案を、全員が協働して利用者本位のケアの追及が継続されてながら、「感謝・慎み・助け合い」の心を持った生活を心がけている。職員同士のコミュニケーションが良好であり、チームとして利用者ひとり一人を尊重した介護サービスが提供されている。</p>
---

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所は認知症高齢者の法令を理解し、独自の理念を持っている。利用者一人ひとりがその人らしく生活できるよう管理者、職員共に理念を共有し、理念の実現に努めている。	地域密着型サービスの意義を理解し、その人らしく生活できるよう「感謝・憤み・助け合い」を理念の象徴とし、ポスターとして掲示し、大切にしている。理念の具現化について職員会で話し合い意見の統一を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、老人会、地域活動の場へパンフレットを配りホームの事を分かってもらえるよう努力し、公民館の活動も知らせていただき、参加出来る事は参加している。	自治会に加入し、ゴミ収集場所の確保に協力を得た。公民館活動では文化祭で利用者の作品を展示し、皆で見学に行った。又、近所の子供達の訪問があったり、野菜や果物の差し入れがあったりと、ホームと地域の人達の係りを持っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在特に活動はないがお世話になっている地域に少しでも恩返しができるよう努めます。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開き報告や、話し合いを行っている。また実際にサービスの向上につながっている。	2-3ヶ月の会議では、ホームの報告や、市の防災マップを基にして話し合いを行ない、災害対策を検討したり、行事等の話し合いを通じて、意見を頂きながら地域に開かれたサービスの確保を図っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族介護教室等出席しているが市の行事等又ホームでの行事も連絡しあっている。またボランティア等と連絡を取り合っている。	ホームの状況や取組等の運営について、市担当者に相談にのってもらい連携をとり理解を得るようにしている。運営推進会議に地域包括支援センターの担当者にも出席してもらっている。	

外部評価結果(グループホームいこいの里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で勉強会を行い身体拘束について学び、決して拘束がないようケアをしています。	管理者、職員は拘束の弊害を理解し、ホームの固有のリスクを把握しながら、日々の申し送り等で、その日の振り返りを行っている。研修会では気付きを持つための事例検討を行い、職員の共有認識を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で勉強会を行い虐待について学び、虐待がないよう努めています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ももちろん管理者は研修を受け必要な人には活用できるよう勉強しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時十分に説明し、納得された上で印を押していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家人の意見を聞くようにしている また意見箱を設置し気軽に意見をしていただけよう対応している。	意見箱を設置したり、家族の訪問時(大体月2回以上)には、管理者、職員は積極的に表出しにくい利用者からの意見、要望を含めて家族から聴くよう努めている。その意見や要望は職員会で話し合いサービスや運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に場を設けてはいないが、その都度話し合いをし、必要なことは反映させている。	特に場は設けていないが、日常的な話し合いの中で、現場の意見や情報を聞くようにしている。職員からのアイデアとして、紙芝居や利用者の誕生会催しの提案などをもらい、運営に反映するよう努めている。	

外部評価結果(グループホームいこいの里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>雇用時に出来るだけ勤務しやすいようまた、やりがいを持って勤務できるようよく話し合うよう努めている。</p>		
13		<p><b>職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は働きながら自分の経験や学習した事を現場でその知識を活かし、又職員同士ミーティング等している。</p>		
14		<p><b>同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホームでの職員や管理者が交流する機会を持ちサービスの質を高めるようにしている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の安心と関係づくりで一番大切な時期ですので家族の思いをよくお聞きし、本人の話をよく聞き本人を受け止めていくよう心がけている。</p>		
16		<p><b>初期に築く家族等との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の悩み不安に思っている事をよくお聞きし少しでも家族の不安が和らぐよう、また安心して入所していただけるよう努めています。</p>		
17		<p><b>初期対応の見極めと支援</b>                      サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族、本人の事情をよくお聞きし、ここでの出来る事はその人に対応して、わからない事は他のサービス等の力を借りその人にあつたケアをしています。</p>		

外部評価結果(グループホームいこいの里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの理念の通り本人がその人らしく、喜んで暮らせるよう職員と本人が共に支えあった生活できるよう努力しているまた、生活している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんと家族の生活歴や、事情をよく理解してよりよい関係が続くよう努力している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族はもちろん、友人の方などが気軽に訪問していただけるよう努めている。	一人ひとりが、これまで大切にしてきた関係が途切れる事のない様、家族や親戚は勿論、お友達が気楽に訪問してお茶を楽しんでいる。また利用者のかけがいのない場との繋がりが、継続できるよう心がけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活が違って来たので、その事を理解し、いつも生活している者同志分かりあえるよう孤立する事ないように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても今まで通り相談等に応じています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの思いを大切に、今まで暮らしてきた生活も考え計画を立て職員同士ミーティングを開き検討している。	一人ひとりが、その人らしく暮らし続ける事が出来るよう、センター方式を活用し、利用者の思いを仕草や顔色、苛立ちなど日々の暮らしから汲み取っている。家族の協力でその人の家族ならではの情報も得ている。	生活を支えるためのケアマネジメントをするには、管理者・職員全員で利用者の思いの把握を欠かす事が大切になる。センター方式を有効に活用し、本人本位の視点に立ったチームで支える取組を期待する。

外部評価結果(グループホームいこいの里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴アセスメントをよく読みその人にあった暮らし方その人の思いを理解しサービス反映できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりをよく観察し、心身状態の把握に努め、ミーティング等でその人が出来ること、困難なことを話し合いサービスに反映させている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話をし、また職員の気がついた事や意見を取り入れ作成している。	利用者を中心に、家族と連絡を取り合い相談しながら、状況変化に応じて担当者を中心に介護計画を作成され変化のない場合も定期的な見直しがされている。今後更に、チームによる家族の意見も配慮した介護計画とモニタリングを期待する。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その人の生活を見て計画を立て気づいた事や職員一人ひとりの感じた事をまとめて計画を立てたり見直している。全体の記録の他に個人の記録もあり、職員間で共有し実践、介護計画に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な場合には他のサービス事業者と話し合い相談しながら利用者さんを支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に絵手紙を習い作品を地域の文化祭に出品、また文化祭へ参加することで作品作りに目標を持って取り組めるよう支援しています。		

外部評価結果(グループホームいこいの里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のなじみの医師に主治医お願いしており、事業所はもちろん入所者も信頼しています。また医師の判断で他の医療機関を受けられる支援をしている。	本人のかかりつけ医となっている。ホームの協力医の定期的往診も受けられ、通院時は、家族と協力し通院介助を行っている。必要があれば協力医の指示のもとで複数の医療機関と連携をとっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師が、かかりつけの医の看護師、地域の病院の看護職に相談して入居者の支援をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は病院関係者との連絡を取り合い情報の交換等利用者が安心して治療できるよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態を常に把握し、家族や本人がかかりつけ医と何度も話し合っ今後の事を考え、家族がかかりつけ医とともに、入居者にとってよりよい終末を迎えられるよう考えて準備しています。	利用者の状態を常に把握し、かかりつけ医と家族と共に、より良い終末を迎えられるよう終末ケアについて学習会を行い、準備をしている。	早期から関係者の話し合いの機会をもち、方針の統一をされる事が重要である。重度化に伴う意思確認書等を作成し、状況変化に応じた段階的な話し合いを十分にされ、チームで支援に取り組むことを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時の対応の仕方、応急手当等勉強して。さらに実際に実践できるよう勉強会をしたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として利用者が身につけ避難できる訓練はしてる。また地域の人との協力が得られるよう運営推進会議にて協力をお願いしてる。	消防署の協力を得て、利用者が身につく避難訓練を実施している。今後は、ホームのみならず、地域の協力を得ながら、避難訓練実施するよう計画している。	

外部評価結果(グループホームいこいの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	入居者一人ひとりを尊重し、整容着衣、食べこぼし、履物、髭剃り、トイレ、入浴等その人のプライバシーを大切にしている。	利用者一人ひとりを尊重し、利用者の生活歴や習慣を理解し、暮らしの中での言葉使いやトイレ、入浴など援助が必要な時も、プライバシーを損ねる事のないよう、職員会等で徹底している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉がけを工夫しその人の生活を崩さないよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを尊重し、生活していただけるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服、下着は季節に合わせ声がけし、本人の希望に合わせて支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合わないものは工夫をし、食べることが困難にならないよう一人ひとりに合わせて調理している。また調理、お膳立て等を一緒にすることで、生活の中での役割を持っていただき生活を共にしていただいている。	一人ひとりの嗜好も加味しながら、ゆっくり食事が出来るよう職員は、気を配っている。りんごの皮むき、塩水に入れる食事の下ごしらえ時は、職員と共に行ないながらその中でも、職員のさりげない支援もあり、前向きな気持ちを引き出す工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が一人ひとりの食事の量を把握しており、食べやすさ、栄養面にも気をつけて提供しています。その他午前、午後のお茶の時間に水分を補給していただいています。また、入浴後や、お散歩の後、季節や状況に応じた水分確保に努めています。		

外部評価結果(グループホームいこいの里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による指導や、マニュアルから口腔ケアを学んでいます。一人ひとりに応じた口腔ケアをしている。皆さんがいつまでも美味しく食事出来るようにと職員全員心がけています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄出来るよう一人ひとりの排泄パターンを理解し、おむつや失敗を減らすよう心がけています。	トイレ排泄を基本とし、利用者毎の排泄パターンを理解している。トイレでの排泄を大切にしながら、失敗した場合でも自尊心に配慮しながら対応し、排泄の介助も本人の尊厳を大切にしながら、さりげない支援の工夫に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員での勉強会や、調理の方と相談して食事管理に気をつけている。食物繊維や、体操、水分補給など工夫して出来るだけ自然に排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて安全に安心して入浴できるよう努めている。ときには季節の行事等に合わせた薬草湯を楽しんでもらっている。	入浴は、利用者の体調に合わせて無理にすすめず、足浴や清拭に変えたりして安全、安心して入浴が出来るよう努めている。季節に応じて、菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠のリズム、パターンを理解しその人に気持ちよく休息睡眠がとれるよう対策をとっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や、薬局からの説明、資料をもとにファイルを作成している。職員全員が把握し、学び理解している。常に利用者の監察に心がけており、変化のある場合は医師に相談している。		

外部評価結果(グループホームいこいの里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、お膳立て等出来る事は出来るだけしていただき、レクリエーション、行事に参加できるよう支援し、生活の中で役割を持って一日を楽しく過ごしていただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家人と外出する方もおられます。ホームの庭や近所への散歩は希望に添えるよう努めている。また、行事として皆さんで外出出来る機会を設けている。	天気の良い日は、出来るだけ戸外にでて、散歩やホームの中庭の草花を楽しむ支援している。少し遠出の外出もあり、利用者と職員両者にとってもストレス発散の機会を活かしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解している。本人や家族の意向、現状を話し合い、本人が悲しい思いをすることがないように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやり取りを希望された場合は対応しています。また、レクリエーションで絵手紙を皆さんで書いており、家族や、友人に送る支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルな間取りになっており、照明、室温にも心がけている。ホールには利用者が生けた花や季節に合わせた共同の作品の展示等工夫し心地よい空間作りに努めている。	木材を基調とした共用空間は明るく開放的である。フローアーからは、季節の草花を眺めてゆったりと座って過ごされ、利用者の生けた花や季節の作品が飾られて、仲間との楽しい時間を過ごす工夫がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見るとき、食卓、それぞれ独りでも過ごせるよう工夫しているまた利用者同志の自由に過ごせるよう居場所は確保している。		

外部評価結果(グループホームいこいの里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者のお部屋は馴染みのタンス、ベッド、テレビ、時計等居心地よく生活できるような心がけている。安心して生活できるよう支援している。	居室は、タンス、ベット、テレビ、時計など持ち込まれ、家族の写真や置物などその人らしく暮らせる工夫がされて、自宅生活の延長のような暮らしが感じられる。居室は自分で毎朝モップがけをし、職員も週に3回程度掃除の支援をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋割りも含め、安全にまた安心して過ごせるよう工夫している。また一人ひとりが自立した生活が出来るよう各居室内のレイアウトも工夫をしている。		